

《感染症対策における各団体の共通事項》

①実施体制

- ・利用人数上限以下での利用とする。
- ・チェックシートを記入する。
- ・感染者が出た際、すみやかに感染経路を追跡できるよう、利用者の把握（氏名、連絡先、体調確認等）を行う。
- ・感染者が出た際、飛騨保健所（0577-33-1111）の指示の下、その他の利用者に対して連絡をとり、症状を確認するなど追跡調査に協力する。

②密集・密閉・密接対策（3密回避）

- ・利用者同士の間隔（2m目安）を確保する。必要に応じてテーブル・イスの削減やパーティション等により対面場면을遮断する。
- ・原則窓を開放する、もしくは30分に1回、2方向以上の窓を同時に開けることで頻繁な換気を行う。（体育館の足元の小窓や2階ギャラリーの大窓など、可能な範囲で行う）
- ・利用中の窓の開放が難しい場合は、30分～1時間に1回活動を休止し、10分程度の換気を行う。
- ・利用規模（人数）の縮小、利用時間の短縮を行う。
- ・大型扇風機が設置されている屋内施設に関しては、必要に応じて利用し換気を行う。

③衛生対策

- ・マスクの着用を徹底する（なお、運動中の着用は施設利用者の判断とする。マスクを着用して運動を行った場合、十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性があることや、体温を下げにくくし熱中症の危険性があることから、息苦しさを感じた時はすぐにマスクを外すことや休憩をとる等、無理をしないよう十分注意する。）
- ・利用者は咳エチケットや頻繁な手洗い、手指の消毒を行う。
- ・利用後は、清掃及び共用の器具、ベンチ、手すり、ドアノブ等を消毒する。
- ・利用者はゴミの持ち帰りを徹底する。

《学校施設利用時における追加事項》

- ・翌朝登校する児童・生徒を感染リスクから守るため、利用したスペース（用具入れやトイレのドアノブ・スイッチ等を含む、利用者が触れた箇所）の消毒を行う。（下図に例参照）
- ・利用時間を通常よりも早く切り上げ、15分を目安として消毒作業を行う。
- ・利用者は、消毒用の雑巾やペーパータオル、使い捨て手袋等を持参する。
- ・小学生・中学生が活動を行う際は、引率者等が消毒作業を行うものとし、忘れ物や施錠の確認等も併せて行う。

【市内各学校体育施設における消毒箇所（例）】

《古川小学校：体育館》



《古川小学校：グラウンド》



《古川西小学校：体育館》



《古川中学校：体育館》



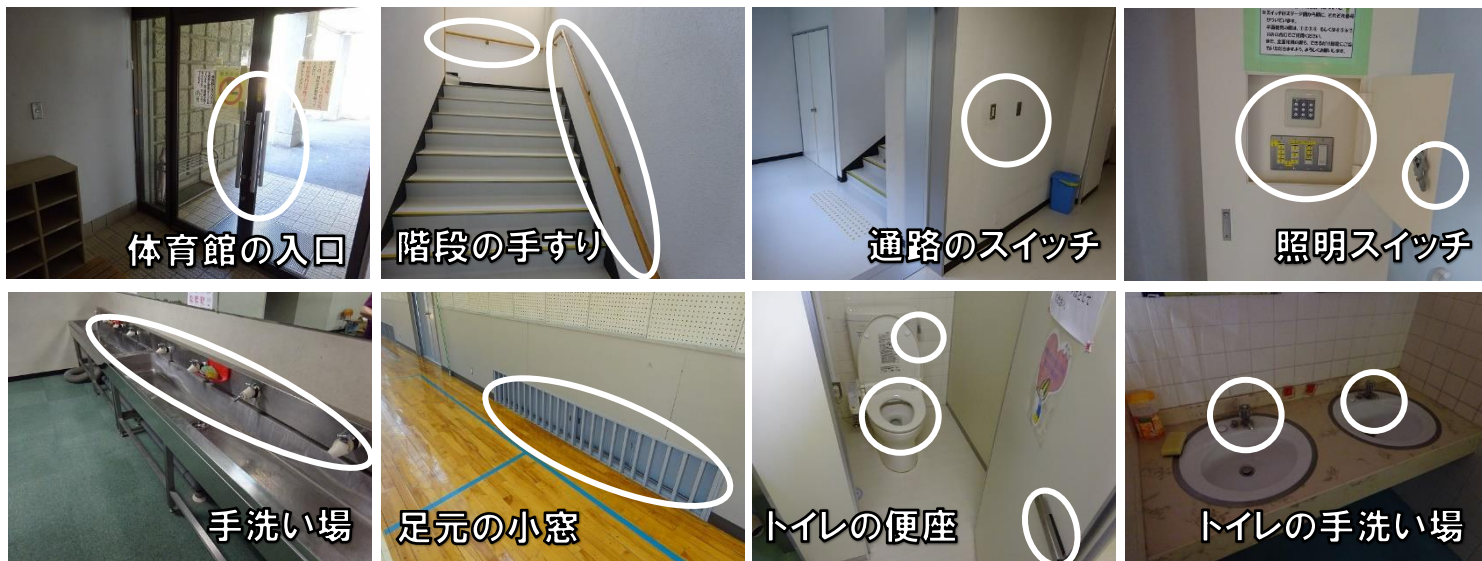
《古川中学校：格技場》



《古川中学校：グラウンド》



《河合小学校》



《宮川小学校》



《神岡小学校：体育館》



《神岡小学校：グラウンド》



《神岡中学校：体育館》



《神岡中学校：グラウンド》



《7月以降における感染症対策例（各種目の個別事項）》

この個別事項は、現段階で得られている知見等に基づき作成されています。

必ずしも十分な科学的な知見が集約されているわけではありません。今後の状況を踏まえて、適宜見直すことがあり得ることにご留意をお願い致します。

活動に伴う詳細な注意事項等におきましては、各種目の上位団体のガイドラインに従っていただきますようお願い申し上げます。上位団体によってガイドラインが作成されていない場合には、直接上位団体へお問い合わせください。

また、活動再開にあたり「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（公財日本スポーツ協会作成）」や中央競技団体（種目団体）のガイドラインも併せてご確認をお願い致します。

【参考】公益財団法人日本スポーツ協会

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4158>

特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-gifu-rec/rekugaidorain.pdf>

サッカー・フットサル

- ・体幹トレーニングやボールを使った基礎練習等を推奨。
- ・試合中、プレー以外の不要な接触を避ける（円陣や得点時のハイタッチ、抱擁など）
- ・指導者・スタッフ、ベンチに座る選手はマスクを着用する。
- ・ピッチ上でチームメイト等と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。
- ・審判が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。
- ・ボトルやタオル等を他の選手と共有しない。

【参考】公益財団法人日本サッカー協会（JFA）

https://www.jfa.jp/about_jfa/guideline.html

一般社団法人日本フットサル施設連盟

<https://www.j-futsal.net/>

野球・ソフトボール

- ・試合中の不要な接触、声掛け等を控える。
- ・多数の者が触れるボール（球）を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。
- ・ボール（球）は適宜消毒する。
- ・グラウンドに唾や痰をはかない。
- ・バットやグローブは自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。

【参考】一般財団法人全日本野球協会 アマチュア野球規則委員会

https://baseballjapan.org/jpn/uploaded_data/bfj_news/doc/0588/BFJ-Guideline.pdf

バスケットボール

- ・練習の内容は対物練習とし、身体接触の伴わない個人の練習に留める。
- ・練習中の選手の移動距離や移動スピードを徐々に増していく。(スポットシューティングや簡単なフットワークからのシューティングから始めて、ドリブルからのジャンプシュートへ移行するなど)
- ・可能であれば、ボールを含め個人専用の備品を準備する。共有する場合、こまめな備品の消毒と手指消毒を行う。
- ・更衣室・休憩スペースは使用せず、帰宅後すぐにシャワーを浴び、運動着を洗濯することを推奨する。

【参考】公益財団法人日本バスケットボール協会

<http://www.japanbasketball.jp/news/55909>

バレーボール

- ・アタック練習、フットワークトレーニング等を推奨。
- ・セットごとの換気など適切な感染防止対策の実施を行う。
- ・試合前などの円陣や、ベンチでの集合時においてもできるだけ密集・接触を避ける。
- ・競技中のハイタッチは腕のタッチにとどめる。
- ・ネット際などで、相手に向いた状態での発声は控える。

【参考】公益財団法人日本バレーボール協会

<https://www.jva.or.jp/index/php/topics/20200529-2>

https://www.jva.or.jp/pdf/covid19_guide_JVA2020.pdf

テニス・バドミントン

- ・通常3コートのところ、1～2コートとする(会場の大きさによる)
- ・選手が審判を兼ねる“セルフジャッジ制”を導入し、人数を縮減
- ・審判が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。
- ・ラケットは自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。

【参考】公益社団法人日本テニス事業協会

https://www.jtia-tennis.com/2020_05_14_tennis_guideline.pdf

公益財団法人 日本バドミントン協会

https://www.badminton.or.jp/covid-19/docs/ActivityGuidelines_20200604.pdf

卓球

- ・ダブルスをプレーしないことを推奨。
- ・一人だけがすべての卓球ボールに手で触れるようなマルチボールシステムを導入すること。
- ・チェンジエンドをしたり、卓球台の上で手を拭いたりしないこと。

- ・卓球台の間隔を十分に空けること。

【参考】国際卓球連盟（ITTF）

<https://rallys.online/forplayers/200523ittfguideline/>

日本卓球協会（JTТА）

http://www.jtta.or.jp/Portals/0/images/association/guidelines/20200530_NTCguideline.pdf.pdf

グラウンド・ゴルフ

- ・通常3ゲーム（ラウンド）を2ゲーム（ラウンド）とする、通常36ホールのところ18ホールとする等、時間の短縮を行う。
- ・スコアカードの記入は個々または1人で行う。
- ・プレーしていない間も、なるべく周囲の人とは2mの距離を開ける。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）

【参考】公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会

<http://www.groundgolf.or.jp/news/tabid/199/Default.aspx?itemid=159>

特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-gifu-rec/rekugaidorain.pdf>

陸上・野外

- ・運動を行っていない時は、必ず各自で準備したマスクを着用すること。
- ・トレーニング中の、不要な私語は慎むこと。
- ・飲み物、タオル等の他人との共有禁止。
- ・集団での練習を避け、他人との距離を保つこと。
- ・運動中に、唾や痰を吐くことは極力行わないこと。

【参考】日本陸上競技連盟公式サイト

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/138400>

剣道

- ・接触を避けた基礎トレーニングを推奨。
- ・用具を重点的に消毒する。
- ・観客同士が密とならないよう、あらかじめ観客席の数を減らす。
- ・近距離での会話を控える。会話をする場合にはマスク着用。
- ・多数の者が触れる用具を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。

【参考】全日本剣道連盟

<https://www.kendo.or.jp/information/20200405>

空手・合気道等

- ・すべてのカリキュラムでは運動・待機を問わず常にソーシャルディスタンスを維持する。
- ・接触を避けたシャドートレーニングを推奨。
- ・握手などの接触を伴う挨拶はしない。
- ・気合発声（基本稽古）などをする場合、10本に1回以下の頻度を目安とする。
- ・多種目、高回数を避ける。接触を含む技術指導者は、手指や手のひらの接触は避ける。

【参考】公益社団法人日本空手協会

<https://www.jka.or.jp/jka-news/19501/>

公益財団法人合気会

<http://aikikai.or.jp/pdf/2020/dojo-restart.pdf>

柔道

- ・練習人数制限を設ける（2名/16㎡、畳8枚ほどを目安）
- ・相手と組み合う練習を行う際は、組み合う相手を変えずに行う。
- ・受け身、筋力トレーニング、1人打ち込みの練習等を推奨。
- ・可能な範囲でマスクを着用する。

【参考】公益財団法人全日本柔道連盟

<https://www.judo.or.jp/p/51770>

プールにおける活動

- ・ハンドドライヤーや共通のタオルを使用しない。
- ・来場から更衣まではマスクを着用する。
- ・トイレは蓋を閉じて汚物を流すようにする。
- ・人と人との距離を充分確保し、滞在時間も可能な限り短縮する。

【参考】一般社団法人日本スイミングクラブ協会

<http://www.sc-net.or.jp/pdf/20200522.pdf>